

令和 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立新東三国小学校 学校協議会

1 総括についての評価

運営に関する計画で示された取り組みは、概ね計画通りに実施され、成果も認められる。

学校目標の達成に向け、教職員が「チーム新東三国」を意識し、心一つに取り組んできた成果が少しずつ実を結んできている。運営に関する計画を常にPDCAサイクルで実態把握し、計画的に実行し、点検・改善をしながら年間を通して遂行することができ、児童が主体的に行動し、意欲的に学習する姿勢につながっている。今後も計画的に実施されたい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ・年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和3年度より増加させる。
- ・年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする

安全・安心な教育の推進では、「学校安心ルール」の徹底を行い、児童が安心して過ごせる教育環境の実現を図ることに取り組んだが、取組内容については概ね達成できた。規則尊重やいじめ撲滅に対しての意識向上を図ることができた。児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目における肯定的回答の割合は、94%と目標を維持した。また、全学年で、いじめアンケートを目標通り年3回実施し、「ある」と回答した児童への聞き取りや関係児童への対応を100%行い、記録の保管もしている。児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目における肯定的な回答の割合は、94%と目標を達成した。目標通り、生活指導連絡会を毎月実施し児童の実態を共有してきた。また、関係諸機関の協力も得ながら子どもサポートネットやケース会議を活用し、その内容を教職員で共有してきた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ・子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラルアーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。
- ・英検 Jr. を4年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点並みにする。
- ・複数の小学生新聞を活用し、朝学習で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、

難しいとは思わない)と答える児童の割合を43%以上にする。(R3 平均 42.5%、3年 42%、4年 36.4%、5年 42.9%、6年 48.8%)

- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。(R3 全国体力調査 58.8%)

未来を切り拓く学力・体力の向上では、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、「しんひがリベラル・アーツ」を掲げ、学習中はペアトークやグループディスカッションなど、考えを交流する場を多く持つことができた。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は36.4.%であり(R3 31.2%)、昨年度より5.2ポイント上回った。

継続して全学年で英語音声指導に取組むと共に、教員の英語指導力の向上のために積極的な研修・研究授業を推進し、児童の英語力を向上させ、英語が楽しいと感じられるよう英語教育の強化を図ってきた。小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%であった。また、児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童が78%であった。

子どもたちの健康増進のために、様々な取り組みを進めてきた。体を動かすことに喜びを感じ、進んで体力づくりに取り組み、「食に関する指導の年間計画」に基づき、食に関する児童の興味関心を高めてきた。睡眠・清掃などの生活習慣などに焦点をあて、日々の生活を見つめられるようにし、SDGsの取組が日々の生活へとつながるようになってきた。その結果、小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が64.5%で指標の60%を4.5%上回った。(R3 全国体力調査 58.8%) また、年3回以上の運動週間を設定し、児童が積極的に運動に励むことができた。食育では、学年ごとに作成する「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間3時間以上の食育の学習を行い、食に関する児童の興味関心を高めることができた。清掃では、掃除ロッカーの整備を学期に1回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んでおこなう児童を育てることができた。健康では、毎週の清潔調べで、ハンカチ90%ティッシュ88%とどちらも指標の85%を上回っていた。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。
- ・ゆとりの日を月に1回以上設定する。
- ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。
- ・「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために地域の協力を得ながら、ボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。
- ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。

学びを支える教育環境の充実について、ICT 機器を活用して、考えを表現するためのプレゼンテーションを行ったり、一人一台学習者用端末を活用した学習に取り組んだりしてきた。検索機能を使っての調べ学習、カメラ機能を使っての観察・見学の記録や撮影した動画を再生視聴しながらの対話的学習など、一人一台学習者用端末を授業で活用できた。ICT を活用した授業時数もについては、1年 12 時間、2年 15 時間、3年 27 時間、4年 18 時間、5年 30 時間、6年 68 時間と目標を達成できた。

3 今後の学校園の運営についての意見

ICT の取り組みについては、先進的に取り組んでいる学校を参考にして、活発な活用を展開していってほしい。活字離れが進んでいる中、「リベラルアーツ教育」や「新聞を活用した取り組み」は良い活動だと思う。今年度の取り組みの成果を来年度も継続していってほしい。